midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

September 2012 No.336-337

９月号の１枚：地主さんのご好意でブルーベリー狩りを

［巻頭言］ 後継者として、信頼・期待に応えてくれる若者たち

「緑のダム運動」の後継者が確実に育ちつつある

８月の定例活動日は、快晴の真夏日であった。学生が核となる97人が森に集まった。そこに「緑のダム運動」を後に託せる若者の姿を見た。朝、森へ向かう道筋、私達年配者・数名の前方をForest Novaの学生たちが歩いていた。森の入口に小さな祠がある。その祠の前で学生たちは頭を垂れていた。先輩学生が手本を示し後輩は素直にそれに従った。

今月の「緑のダム体験学校 」は、相模原市の親子10組を募集して相模原市立環境情報センターと連携した。この日の学習は午前は森の生態系学習、午後は森林作業実務であった。

午前の森の生態系学習に参加した。森の土を採取してその中にどれだけの昆虫・土中生物がいるかを観察した。小さな紙コップに森の適当な場所から土を採取して篩（ふるい）にかけ、昆虫・多足類・線虫などを探し出し、更に虫眼鏡で、篩った小土のなかの小生物を見つける作業だった。土中の小生物のフンを微生物が分解して土をつくり全ての植物の栄養にもなり、全ての生き物の命を支えてくれると結論を導き出した。若い女性指導員のあまりにも素敵な学習ぶりに、何処で指導を受けたかと聞いたら、全くの初体験で麻布大学の新１年生と言うことであった。知識は、Forest Novaの学生が持ち寄ってカリキュラムをつくり、何度か練習したそうだ。

過日、学生が連れ立って訪ねて来てくれた。活動をどのような経過を辿り、どう発展させようかという相談だった。出た案は「若者による国際認証の森つくり」であった。成功させてあげたい。

19日の活動日には、指導教授率いる東京学芸大・環境教育研究センターから12人の所属学生が、Forest Novaと行動を共にするという話が出たそうだ。Forest Novaは、麻布大を核とする他大学との連合体だが「緑のダム運動」の後継者が確実に育ちつつある。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.09

9月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

9月16日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

8月5日（第一日曜日）

8月になり、暑くなってきました。山の中は他の場所よりも少し涼しいとはいえ気温も高くなり、活動中も熱中症など体調管理に気をつけなくてはいけません。

今回は経路作り班と小原の郷に置いてある巨大ベンチ補修班に分かれて活動を行いました。孫山に向かっての経路は毎月順調に伸びていき、登るだけでも息が切れるようになりました。終着点が見えてきたこともあり、活動にも熱が入ります。今回は初参加の方がいたこともあり、ひとつひとつ丁寧に整備を進めていきました。日々何気なく行っている間伐や、その間伐した木を経路に使うことも、しっかりと意味を理解しながら行わなければいけないと、再認識しました。

巨大ベンチ補修班はForest Nova☆メンバー３人と、緑のダムの斉藤さん、松尾さんの計５人で活動を行いました。この巨大ベンチは、小原の活動拠点に向かう途中にある砂防ダムを造る際に伐られた木だそうで、数年前に巨大ベンチとして小原の郷の横に置かれたと聞いております。僕が活動に参加し始めたころからあるのでもう３年以上は経過しているようです。まず初めに、座る部分の表面の部分を手ではがしていきます。劣化した部分からは長い間風雨にさらされ、大変だったのだろうなということが伝わってきます。次にはがした部分にグラインダーをかけ、細かい部分の劣化を取っていきます。そして、曲面用の電動かんなで表面をきれいにしていきます。かんなをかけ終わる頃には劣化していたのが分からないくらいきれいになっていきます。また、同時進行で机の部分の表面にも電動かんなをかけていき、こちらもきれいにしていきます。

一連の作業を終えると、木本来の茶色さ、そして匂いが戻ってきます。風雨にさらされて一見劣化しているように見えても、削ってきれいにすれば、またその木の個性が出てくる…それもまた木の良さなんだと思います。

今回、巨大ベンチの補修作業は終わりませんでしたが、木のとてもいい部分を垣間見た気がします。木は森に生えているときも様々な働きをしてくれますが、伐られてからも僕たちのまわりで役に立ってくれます。また、今回ベンチを通して数年前、このベンチを作った人たちの思い、さらには木を植えた人の思い、管理してきた人の思いを感じることができました。

今後、このベンチは小原の郷の屋根のある部分に置かれるそうで、これからもいろいろな人の役に立ってくれそうです。いろいろな人が修理など、手をかけていくことでどんどん新しいものになっていく…

そうやって一つの木工製品にたくさんの人が手を加えていろいろな人の思いが詰まった木工製品になる…。それもまた木の良さだと思いました。

瀬戸　智大（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

8月19日（第三日曜日）

今回は、 匿名ということですが、参加した方からの報告です。

お盆が過ぎると１年が早いと感じる。８月半ば・残暑の中、今日もたくさんの若者、壮年・熟年が元気に集合して活気の相模湖・嵐山の森。参加者は、なみすけの森：高井戸中地球環境部と卒業生17名、学生連合Forest Nova16名、東京学芸大指導教授と学生12名、相模原市内の親子・森林体験学校参加18名、生命の森宣言４名、一般参加30名、総計97名。

・お花畑班の応援に川田会員の出身校卒者の女性３人を交えて同窓会の和やかなムードで７名が生垣つくりに取り組んだ。さすが人数見る見る形を成していく。丸茂班長、吉池会員も沢山の助っ人に感謝！。

・養蜂班・黒川会員は蜂の習性に詳しい。蜜蓄えの少ないＡ蜂群は、蜜の多いＢ蜂群に蜜を分けて貰いに行くが、Ｂ蜂群の門番に「袖の下を

渡す」とか。是非一度、蜜蜂社会のそんな賄賂話など聞きたいなぁ。
・今日の団体参加は、相模原市の「親子・森林体験学校」と東京学芸大の環境学科。親子・体験学校は、巻頭言で触れられているので省略。東京学芸大班は、Forest　Nova別班と行動を共にした。

　お昼休み、ノバ・瀬戸代表から「学芸大から行動を共にしたいという申し入れがあった」と報告を受けた。このところ、千葉大、東京都市大、跡見女子大、日大、明大、法政大、玉川大、多摩美大、早大、東大、東農大・・・と学生が続々と参集してきている。この森に何か新しい胎動を感ずる。

　午後は、この森の地主さんのブルーベリー畑の摘み取りに53人が参加。何でもお手伝いのお礼だと地主さんは、「お好きなだけ、ご自由にお食べ下さい」と大らかなもの。参加者は大満足の顔をして基地に帰ってきた。

匿名希望（本会、会員）

[報告１]
湘南の森活動報告

7月28日

　この日も前回と同様、定例作業組と樹木調査組に別れて作業を実施しました。
　樹木調査は最後に残った中央地域の10本を完了させました。さらに、これまでの調査済み樹木の見落とし項目の再チェックを行いました。同時に、バーテックスで測定した樹高の一部を三角関数法でチェックした結果、２８Ｍと測定されたコナラは２０Ｍであることが判明、同測定器の信頼度に疑問符が付くという結果となりました。
　ヤブラン平の日当たりのよい場所のヤマザクラの苗はぐんぐん大きくなりましたが、やや日当たりの悪い場所の苗は生育が悪く、樹木の生育に光がいかに重要かということを教えてくれています。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova活動報告

　夏本番の７月、照りつける太陽の下で森林整備を続ける私たちに、嬉しい出来事がありました。それは、今までForest Nova☆を支え続けてくれたOB・OGの方々からの、活動への参加のお知らせです。学生を卒業し社会人になり、忙しい日々の合間を縫って来てくださる先輩方へ、活動の内外でたくさんのことを教わりたいと、胸に期待をふくらませ、活動に臨みました。
　この日の活動は主に植生調査、材降ろしを行いました。植生調査では、草本調査と木本調査を行いました。草本調査では、緑のダムの内野さんに植物の名前などを教わりながら調査枠を全て調べることができました。木本調査では調査枠が分からなくなってしまっていたので、調査枠の補修も行いました。１つひとつ高さや胸高直径を測るという作業でしたが、植物の話などをしながら楽しく行うことができました。

私たちは驚くばかりでした。全員でしっかりと考え、行動していくと、毎月行っている活動の中にもこういった新しい発見があります。毎回の活動を、このように充実したものにしたいと思います。

しかし今回植生調査をやって、なぜ植生調査をやるのか、間伐前と間伐後の違いを見るためと言っているけれど、今の調査場所では違いが見られないのではないか、などForest Nova☆内で疑問が沢山でました。そのため植生調査の意義を再度考え直す必要があると感じました。今回の調査結果を生かして、これからよりよい活動が出来るようにしたいです。

材降ろしでは、以前間伐した材が林内に大量に積んであるので、OBの方や初参加の方と一緒に倉庫まで降ろしていきました。２mの丸太は非常に重く、男性二人がかりでも運ぶのは辛いものがあります。また、暑さと疲労にやられてしまうと集中力が落ちてしまい、危険にもつながってしまうので、しっかり休憩を取り、一本一本丁寧に運んで行きました。

さらに、消防学校に通っている先輩から新しい技術を教えていただきました。それは、携行結びというロープの結び方です。今までは二人で一本の丸太を運ぶのが精一杯だったのですが、この結び方を利用することで、一人で一本の丸太を運ぶことができるようになりました。普段の生活の中で使っている技術を、咄嗟に森林整備に利用できる先輩に、

そして、活動後には嵐山近くの弁天島でOB、OGの先輩方と一緒に水遊びをしました。その中で、Forest Nova☆を立ち上げた先輩方と話したり、お仕事の話を聞く事によって、私ももっと頑張らなくては、と刺激を受けました。
これからも先輩方とのつながり、緑のダムの方をはじめ、お世話になっている方々とのつながりを大切にし、活動していきたいと思います。

吉崎　香代（Forest Nova）

[報告３]
相模原市立環境情報センター夏休み環境学校「森林学習」に参加して

今回、小学３年の娘と森林学習に参加させていただきました。相模湖駅改札を出て、スタッフの方に迎えられ、いざ出発。天気が良く、途中は暑かったですが、嵐山の森に到着、前日が雨だったこともあり、木陰は意外と涼しかったです。

まず最初に行った「土の中の生き物探し」では、ミミズぐらいしか考えていませんでしたが、土をじっくり見ることにより、様々な虫がいることに気づきました。娘は特大サイズのヤスデを見つけることができたので大満足でした。普段、家の庭でダンゴ虫を捕まえているおかげで、平気に触れていました。

死体を掃除するシデムシという存在を初めて知り、森の中に沢山いたのには驚きました。

これらの小さな生き物たちが他の生き物と共存し、森の土を作り、保水力と浄水力のある森が成り立ち、川の水、我々の水道に繋がっていることが学べました。

午後からは、嵐山の木、枝や木の実を使った作品作りを楽しめました。娘は、この時間がいちばん楽しかったそうです。

今回、初めて、森を整備されているみなさんの存在を知り、頭が下がる思いです。特に大学生のみなさんが、活動に参加されていることに驚き、森や生き物に対する素朴さを感じました。参加者よりも多いスタッフのみなさんにお世話になり、ちょっと贅沢な有意義な時間を過ごすことができました。
また、この様な機会があれば、参加できればと思います。

[報告４]
コカコーラ環境教育賞で優秀賞を受賞

8月３～5日

8月3日から3日間、北海道夕張郡栗山町で行われたコカコーラ環境フォーラム2012に参加してきました。このフォーラムでは、コカコーラ環境教育賞の最終選考も兼ねたイベントで、小中学校を対象とした活動表彰部門には、138団体のエントリーから10団体が選ばれ、５分間のプレゼンで大賞を決めるというものです。このコンテストに本会と杉並区立高井戸中学校地球環境部とでエントリーし、この１０団体に残っていました。

さすがに全国から集まってきているだけに、瀬戸内海の海底のごみを漁船でさらっている中学校や、釧路湿原の外来種の調査駆除を行っているなど、どの団体も小中学校とは思えない本格的な活動を行っています。本会も国際認証林で中学生が森林再生、積み木を通して間伐材の有効活用を訴えるプレゼンを行いました。残念ながら、大賞は逃しましたが、残り９団体に贈られる優秀賞を受賞しました。

プレゼンやコンテストもさることながら、北海道で行われた自然体験プログラムがすばらしく、特に水生生物の観察が参加した生徒は感動をしたようです。ほんの少し網で待つだけで小魚やエビがわんさかと捕れるのがおもしろくて仕方なかったようで、用意されたバケツがあっという間に一杯になっていきました。さらに、捕った魚の解説をさかなクンが行うというスペシャルプログラムも生徒達は釘付けになり、確かに大人が聞いていても話の展開もうまく、一生の思い出になる体験プログラムでした。

生徒達は自分たちの手で受賞したような気になっていますが、ここまで来るまで、たくさんの方々の手助けやご指導があってのことであることを、しっかりと認識させ、今後の活動を続けていきたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[事務局からのお知らせ、お願い]

相模原環境まつりに参加

本会では、相模原市で行われる環境まつりに参加します。

さがみはら環境まつりは、相模原市内で環境活動に取り組む市民・事業者・教育機関・行政が協働して運営を行う、環境のためのイベントです。相模原をはじめとする市民等の環境保全意識の増進や環境学習の推進を目的として、毎年開催しています。（公式ページより抜粋）

本会からは間伐材の積み木でつくるはやぶさが出展予定です。

９月３０日１０時より相模原市環境情報センターです。また、相模原市環境情報センターと協力し、はやぶさの開発、運用を行った、JAXA相模原キャンパスより研究員の方によるトークセッションも企画しています。詳細は決まりしだい、本会Web定例活動報告等でお知らせいたします。

会員コーナー

●本会のNPO法人登録10周年を記念して会員のコーナーを開設しました。
皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●9月より新年度を迎えます。新規会員募集と継続会員募集を開始します。
お振込みは極力ゆうちょ銀行からお願いいたします。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

●来月号から会費を納入いただいた方のお名前をこのスペースにてご紹介してはどうかと経営運営会議で検討しています。
お名前の掲載を辞退される方、またニックネーム等での掲載も可能です。
会員コーナー専用メールアドレスまでご一報ください。

掲載例：正会員、石村黄仁（東京都）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版